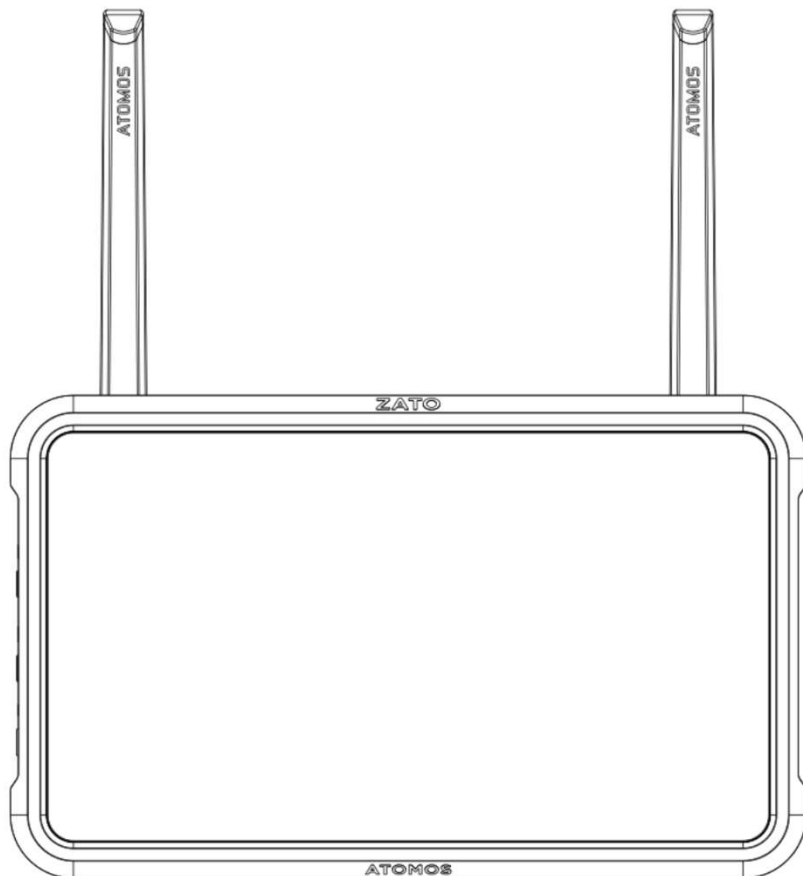




ZATO CONNECT

USER MANUAL



ZATO CONNECT ユーザーマニュアル

© ATOMOS 2022. TM® すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

仕様書は予告なく変更される場合が御座います。

ZATO CONNECTを使用するにあたって【安全にお使いいただくための重要なお知らせ】も併せてご確認ください。

<https://www.atomos-japan.com/support/notice>

ZATO CONNECTはACアダプターやATOMOSバッテリーが同梱されておりません。別途ATOMOS純正アクセサリなどご用意ください。

<https://www.atomos-japan.com/products/zato-connect#accessory>



本書は、AtomOS ファームウェア バージョン 10.03.01 以降をお使い頂いていることを前提としています。
my.atomos.com にアクセスして、ZATO CONNECTの AtomOS ファームウェアを更新してください。

I/O と本体の特徴	4
バッテリー& 電源	6
起動画面- トップバー& ボトムメニュー	7
I/O タブ- INPUT、OUTPUT、AUDIO	8
『GENERAL』 タブ- POWER、DISPLAY、DATE & TIME、ABOUT DEVICE	9
『GENERAL』 タブ- POWER、DISPLAY、DATE & TIME、ABOUT DEVICE	10
RECORD MEDIA（収録）- CODEC、FILE NAME & MEDIA INFO	11
収録- 互換性のあるSDカード	12
NETWORK タブ- WIFI & ETHERNET	13
『CONNECT』 タブ- ATOMOS CLOUD STUDIOとの接続・ストリームの設定	16
OVERLAY（オーバーレイ）タブ- ADD MEDIA & LAYOUT	17
PiP - ベストプラクティスガイド	19
オーバーレイで PiPの向上 - PSD テンプレート	21

I/O と 本体の特徴

ZATO CONNECTの前面は、5インチのSuperAtom IPS画面に覆われています。




ZATO CONNECTの左側面には、3.5mm Mic/Line入力端子と、3.5mm ヘッドホン端子、2.5mm Serial/LANC コネクターがあります。



ZATO CONNECTの右側面には多目的電源ボタンと、SDカードスロットがあります。



ZATO CONNECTの主要な 入力/出力は機器の背面にあります。左上にはUSB-C端子 (USB 1 & USB 2)が2つ、右上にはHDMI端子 (Input & Output)が2つあります。

 USB 1はUSB UVC/ウェブカメラ入力用で、USB 2は多目的な端子です。USB UVC/ウェブカメラ出力用として、もしくは、付属のUSB-C to Ethernet アダプターを使用して接続ポイントとしてご利用頂けます。



付属のWi-Fiアンテナを取り付けるための、SMAコネクターが上部に2つ配置されています。



I/O と 本体の特徴

背面中央にはNP-F/Lシリーズ用のバッテリースロットがあります。

バッテリースロットの左側にはUSB PDと記載されているUSB-C端子があり、USB PD 電源アダプターやモバイルバッテリーを使用してZATO CONNECTに電力供給を行うときに使用します。

 20W以上出力できるUSB PD機器だけお使いになることを推奨します。



本体の天面と底面に通気口がありますので、ご使用中に通気口がふさがらないようにご注意ください。

ZATO CONNECTの天面と底面にはカメラアクセサリが取り付けられるように1/4“20ネジ用のネジ穴があります。

バッテリー & 電源


ZATO CONNECTの電源を入れる前に、電源を接続する必要があります。NP-F/Lシリーズバッテリー、もしくはUSB PD power bank、電源アダプターのいずれかをご利用頂けます。





電源を接続後、ZATO CONNECTの右側面にある電源ボタンを短く押しますとZATO CONNECTの電源が入ります。電源を切るには、画面の明かりが消えるまで電源ボタンを4秒程度押し続けてください。





ZATO CONNECTにNP-F/LシリーズバッテリーとUSB PD電源を同時に接続しますと、冗長化を持たせることができます。一方の電源が十分な電力を供給できなくなったとき、機器は自動的に電源の供給先を切り換えます。

 ZATO CONNECTは平常時約10W以内で駆動していますが、負荷がかかりますと最大20Wの消費電力となる場合があります。どのような状況でも確実に駆動できるようにUSB PD電源から20W以上の電力が供給できていることをご確認ください。

 必要な出力電力に使用が満たないUSBパワーバンクやアダプターに接続しますと、ZATO CONNECTの電源が入らなかったり、予期せぬ動作をする場合があります。

 ZATO CONNECTの作動電圧が6.5Vに低下したとき、バッテリーの残量が少ないこと、機器を主電源に接続することを求める警告メッセージがポップアップで表示されます。6.2Vになりますと、接続しているバッテリーの残量が殆どからの為、ZATO CONNECTの電源がまもなく落ちる最終警告の画面が表示されます。

 Ninja V/V+ をお持ちの場合は、付属のバッテリーエリミネーターをZATO CONNECTでお使い頂くことができます。バッテリーエリミネーターは別の電源アダプターを使用したり、D-Tapケーブルを使用してバッテリーから電源を供給する際に便利です。（D-Tapケーブルをお持ちの場合）

 バッテリーをお使いの場合、ATOMOS NP-F/Lシリーズの電池であることを確認してください。

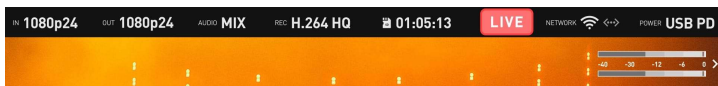
起動画面- トップバー& ボトムメニュー

最初にZATO CONNECTの電源を入れますと、明るいオレンジ色の背景の上に、『NO INPUT（入力無）』のメッセージが表示されます。こちらのメッセージはZATO CONNECTに接続されている入力ソースがないことを示しています。



トップメニューバー

トップメニューバーには、ZATO CONNECTを使用するうえで重要なパラメーターがまとまっています。



IN: 入力信号の仕様（解像度とフレームレート）を表示しています。ZATO CONNECTに何も接続されていない場合には、『No Input』と表示されます。

OUT: ZATO CONNECTのHDMI出力信号の仕様を表示しています。

Audio: ミキサーで選択したオーディオソースが表示されます。

Rec: H.264収録時で選択されている圧縮率

SD カードアイコン: 現在挿入しているSDカードに収録できる残り時間を表示しています。

LIVE ボタン: ZATO CONNECTのストリーミングの開始/停止状況を確認することができます。

Network: Wi-Fi接続時の電波強度の状況と、Ethernetの接続状況が確認できます。

Power: 電圧に基づいてバッテリーの残量を表示します。もしくは、USB PD経由で機器に電源供給を行っていることを示します。

オーディオメーター: MIX出力のオーディオメーターが表示されています。



トップバーのラベルを押しますと、AtomOS Liteメニューの関連ページに素早くアクセスすることができます。

ボトムメニュー:

ボトムメニューでは、様々なZATO CONNECTの機能に素早くアクセスすることができます。



収録ボタン: 挿入しているSDカードへ収録を開始したり停止することができます。SDカードが挿入されていない場合には、こちらのアイコンはグレーに表示されます。



再生モードから、収録/ライブビューモードに戻るときにも使用します。

再生ボタン: こちらを押すと再生モードに切り替わります。ファイルブラウザで選択したクリップを再生するとき 사용됩니다。

モニターボタン: トップメニューバーとボトムメニューの表示・非表示が切り替わります。

オーバーレイボタン: オーバーレイやピクチャーインピクチャーの配置がおこなえる、Quick Access Bottom Function Rowにアクセスできます。

4つの主なファンクションボタンに加え、素早く適用可能な10個のモニタリングツールボタンがあります。

Horizontal Flip (自撮りモード) : 画像を水平方向にミラー反転し、撮影がより便利になります。

Vertical Flip: 180度画像が回転します。ZATO CONNECTを天地逆位置で使用する場合に活用します。

x2 Zoom: 画像を拡大し正確なフォーカス確認が行えます。

9 Grid: 三分割法のガイド線を表示しフレーミングがしやすくなります。

16:9: 16:9のガイドフレームを表示します。

1.91: 1.91のガイドフレームを表示します。

4:3: 4:3のガイドフレームを表示します。

1:1: 1:1 (スクエア)のガイドフレームを表示します。

4:5: 4:5のガイドフレームを表示します。

9:16: 9:16のガイドフレームを表示します。

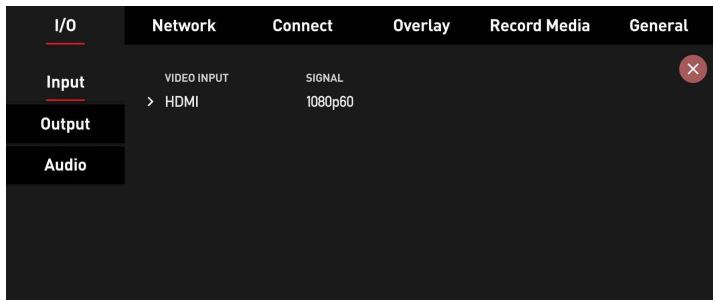
メニューアイコン: 以前開いていた最後のメニューに素早くアクセスすることができます。

I/O タブ – INPUT、OUTPUT、AUDIO

I/Oタブにはメニュー画面左側に3つのサブメニューがあります。

Input（入力）：

Inputメニューの左側には、『VIDEO INPUT』項目があり、映像入力ソースをHDMI、USB（UVC）で切り替えることができます。



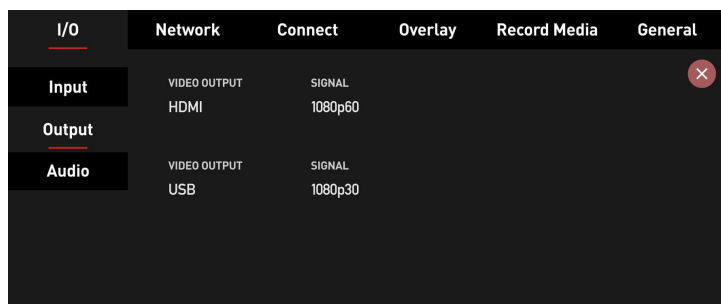
右側にある『SIGNAL』には、入力信号の情報が表示されています。シグナル情報は、解像度、スキャンタイプ、フレームレートが短縮形で表示されています。

例: 1080p30
解像度: 1080 (1920 x 1080)
スキャンタイプ: p (プログレッシブ)
フレームレート: 30 (30 fps)

対応解像度: 1080 (1920 x 1080)
対応スキャンタイプ: p (プログレッシブ)
対応フレームレート: 23.98, 24, 25, 29.97, 30, 50, 59.94, 60

Output（出力）：

OutputメニューにはZATO CONNECTからの出力信号の情報が表示されています。



こちらの画面には、HDMI出力、USB UVC 出力がそれぞれ表示されており、ポートから出力される信号情報がそれぞれの『SIGNAL』に表示されています。



『Video Output USB』は機器背面のUSB2端子が割り当てられています。ウェブカメラ入力用のUSB1端子と比較しますと、USB2端子は付属のUSB-C to Ethernet アダプター接続としてもご利用頂ける多機能ポートです。

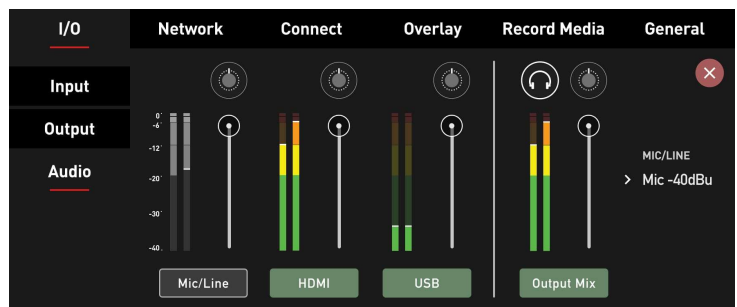


HDMI出力は最大60fps迄の1080p信号の出力に対応していますが、USB UVC 出力では、30fps迄に制限されています。ZATO CONNECTの入力信号が30fpsを超えたとき、USB UVC出力は自動的にフレームを落とし、オリジナル信号の半分の信号を出力します。

例：HDMI 入力 = 1080p60、HDMI 出力 = 1080p60、
USB UVC 出力 = 1080p30

Audio（オーディオ）：

ZATO CONNECTにはオーディオミキサー機能が搭載されています。



ミキサーは3つのステレオオーディオメーターで構成されています。オーディオ入力(Mic/Line、HDMI、USB)のそれぞれに1つずつ、同様に出力のMIX用に4番目のペアのステレオメーターがあります。

オーディオソースをMIXに加えるには、対応するソースの下にあるボタンを押します。MIXから外したいときは、下のボタンを再度押してください。ソースを追加後、各メーターの右側にあるスライダーを使用してボリューム/ゲインを調整し他のチャンネルからのオーディオと正しくMIXされていることをご確認ください。各チャンネルごとに音量の調節を行いましたら、『Output Mix』スライダーで最終調整を行うことができます。

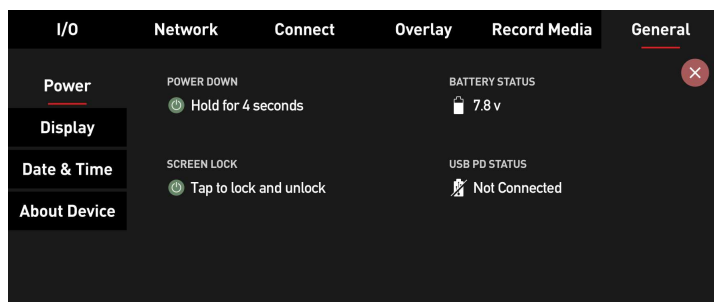


Line (-10 dBu)および、Mic Levels (-40 dBu)の両方に対応しています。メインウィンドウの右側にある『MIC/ LINE』下の文字をタップして切り替えることができます。

ZATO CONNECTのメインメニュー『General』タブには使用頻度の低い4つのサブメニューがあります。
Power（電源）、Display（画面）、Date & Time（日付 & 時刻）、About Device（機器情報）

Power（電源）：

電源項目では、電源ボタンの使用方法についての基本説明とバッテリー及び、USBでの電力供給状況を確認することができます。



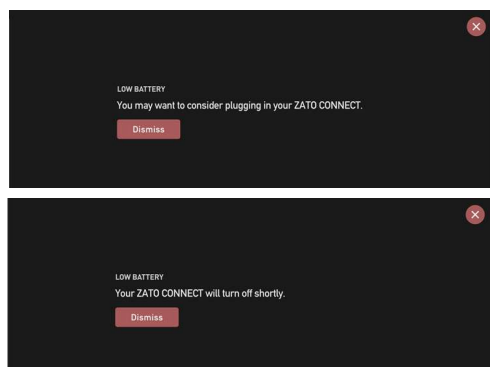
機器の電源を切りたい時には電源ボタンを4秒間押し続けてください。

電源ボタンを短く1回押しますと、スクリーンロックがかかります。タッチパネル操作が反応なくなります。こちらの機能は、誤って画面に触れて機器の設定が変更されないように固定したいときに使用します。
もう一度電源ボタンを短く1回押しますと、スクリーンロックが解除されます。

画面の右側には本体背面バッテリースロットに装着したバッテリーの残量インジケータが表示されています。バッテリーの残量に応じてアイコンが変化します。

Battery Status（バッテリーステータス）のすぐ下にはUSB PD Status（USB PDステータス）が表示されています。USBから電源からZATO CONNECTに電源供給が行われますと電圧が表示されます。

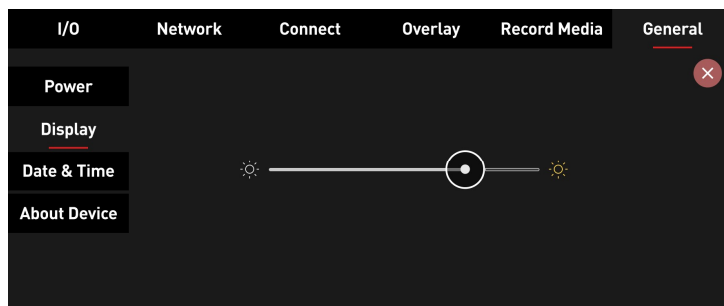
電圧が6.5Vまで下がりますとZATO CONNECTの画面には、バッテリーの残量が少ないため、機器を主電源に接続するように促す警告メッセージが表示されます。
電圧が6.2Vになると、装着しているバッテリーの残量がほぼないため、ZATO CONNECTの電源が落ちる可能性があることを示す最終警告の画面が表示されます。



ZATO CONNECTがUSB PDのみで給電されているときは上側のバッテリーステータスは『Not Connected』と表示されます。

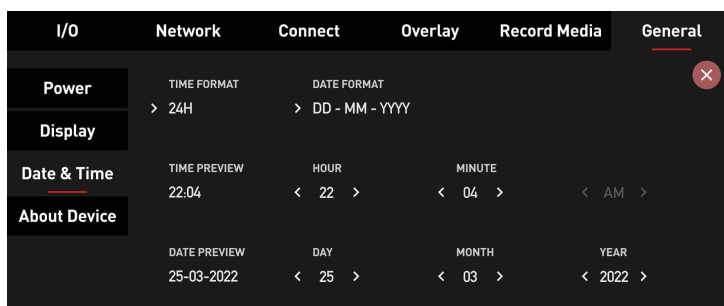
Display（画面）：

ディスプレイメニューには大きな横長のスライダーが1つのみ表示されています。こちらのスライダーを使用してZATO CONNECTのモニターの明るさを調整することができます。



Date & Time（日付 & 時刻）：

こちらのメニューでZATO CONNECTの日付と時刻の設定を行うことができます。



『TIME FORMAT』をタップしますと、24時間表示、12時間表示を切り替えることができます。

『DATE FORMAT』では現在の年月日の表示方法を変更することができます。設定できる形式は、DD-MM-YYYY (初期値 日月年)、MM-DD-YYYY (月日年)、YYYY-MM-DD (年月日) です。

『TIME PREVIEW』では、設定された現在の時刻が表示されています。『HOUR (時)』、『MINUTE (分)』欄で修正することができます。

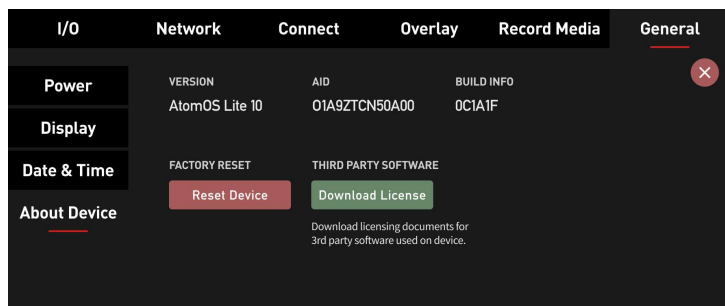
『DATE PREVIEW』では、ZATO CONNECTに設定されている現在の日付が表示されています。日付は、『DAY (日)』、『MONTH (月)』、『YEAR (年)』欄で修正することができます。



設定した日付&時刻設定はZATO CONNECTの電源を切っても保持されます。ZATO CONNECTをリセットもしくは、内部電池が切れたときのみ日付&時刻を再設定する必要があります。

About Device（機器情報）：

General タブのサブメニュー一番下にあるAbout Deviceでは、現在インストールされているファームウェアバージョン、AID、ファームウェアビルド情報が表示されています。



こちらのウインドウにはZATO CONNECTを工場出荷時の状態にリセットする『Reset Device』ボタンがあります。こちらのボタンを押して、確認ダイアログで更に先に進みますとZATO CONNECTに設定されていたすべての状態が削除されます。

つまり、Wi-FiやEthernetなどのネットワーク設定、オーバーレイグラフィックやプリセット、Atomos Cloudのペアリングなどすべての設定が削除されます。

リセットを行う前に、Atomos Cloud StudioのアカウントからZATO CONNECTのペアリングを解除する必要があります。（ペアリング設定を行っていた場合）



解除を行うには、atomos.cloudアカウントにログインを行い、登録機器の右上隅にある3つの点をクリックします。

ドロップダウンメニューが開きますので、そちらで『Unpair Device』を選び、ポップアップ画面で再度選択してください。



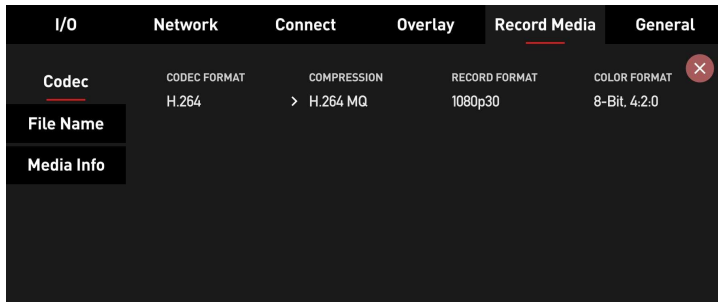
『Download License』ボタンを押しますと、ZATO CONNECTで使用されているサードパーティソフトウェアライブラリのライセンス情報がテキストファイル（.TXT）でSDカード内に生成されます。

RECORD MEDIA（収録） – CODEC、FILE NAME & MEDIA INFO

『Record Media』タブでは、ZATO CONNECTの収録設定を行うことができます。
このタブには、『Codec（コーデック）』、『File Name（ファイル名）』、『Media Info（メディア情報）』のサブメニューがあります。


Codec（コーデック）：

『CODEC FORMAT』では、収録しているコーデック情報が表示されています。現在、MP4コンテナのH.264 収録のみご利用頂けます。



『COMPRESSION』をタップしますと、ZATO CONNECTの収録モードで、YouTubeやTwitchなどのプラットフォームにストリーミングを行っていない時にタップするごとに映像品質を切り換えることができます。
通常の収録では4段階の圧縮品質が用意されています。

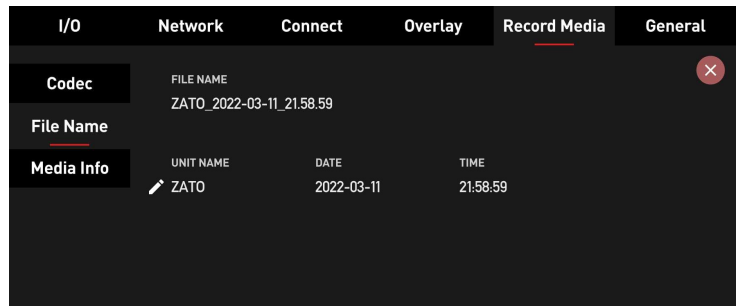
LQ: ~5 Mb/s
MQ: ~12 Mb/s
HQ: ~50 Mb/s
XQ: ~80 Mb/s (All-I)

 ZATO CONNECTが、YouTube、Twitch、Facebook Liveにストリーミングを行っているとき、こちらには、H.264 STが表示されます。
この表示は、RTMPストリーミング出力で使用されているのと同じビットレートでバックアップを収録していることを示しています。

『RECORD FORMAT』は入力信号の特性が表示され、
『COLOR FORMAT』では収録される色情報が表示されています。
現在、ZATO CONNECTは8bit、4:2:0の収録に制限されています。

File Name（ファイル名）：

ZATO CONNECTで収録するときに適用されるファイル名を設定することができます。



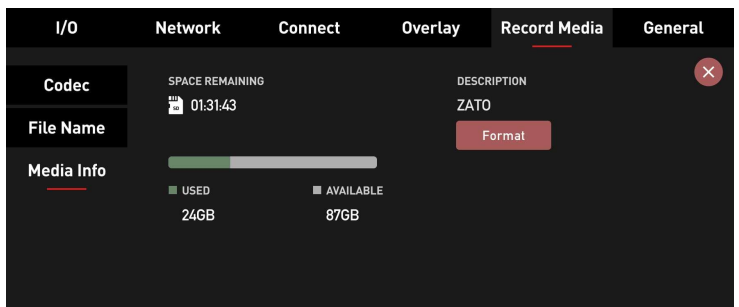
上側にある『FILE NAME』では、収録した時に適用されるファイル名がプレビュー表示されています。

その下にある、『UNIT NAME（ユニット名）』でキーボードから新しい名称を入力し、変更することもできます。

『DATE』と『TIME』の欄にはGeneralメニューで設定した情報が反映されています。

Media Info（メディア情報）：

こちらのメニューでは、現在設定されているH.264の圧縮率で収録した場合の残り時間を確認することができます。



下側には挿入しているSDカードの情報があり、現在使用中の容量（緑色）と収録可能な空き容量（灰色）を示すグラフが表示されています。

右側にはSDカード名が表示され、そのすぐ下に『Format（フォーマット）』ボタンがあります。

『Format（フォーマット）』ボタンを押しますと、SDカードを本当にフォーマットしても良いか確認する画面が表示されます。
フォーマットを実行しますとデータの復旧ができなくなります。

収録 – 互換性のあるSDカード

現在のファームウェア10.03.01において、収録に関する以下の制限事項がございます。

- ZATO CONNECTで収録を行う際は、U3 V30クラス以上のSDカード（64GB、128GB）をお使いください。
- 映像を収録する際は、HD60pのH.264 MQもしくはLQ（4:2:0, 8bit）をお選びください。



H.264 HQ、XQで収録をおこないますと、映像や音声に乱れが発生する場合があります。

- 収録したH.264 LQ/MQ/HQファイルをZATO CONNECTで再生時、滑らかに表示されない場合があります。



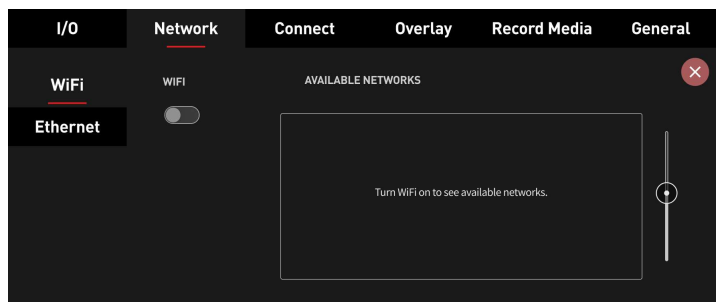
この場合でもストリーミングやHDMI/USB出力では滑らかな表示となります。

NETWORK タブ – WIFI & ETHERNET

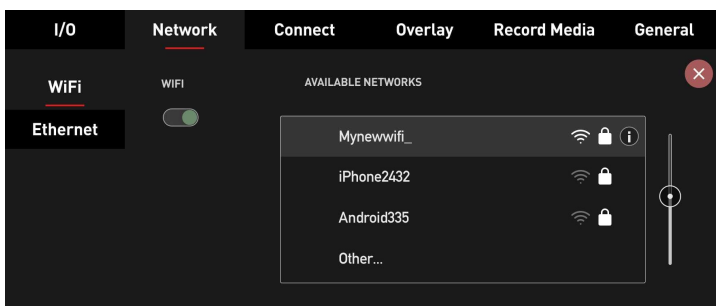
工場出荷状態では、ZATO CONNECTはインターネットに接続されていません。ZATO CONNECTをウェブに接続し、YouTubeへのストリーミングなどCONNECT機能を使用するには、『Network』タブにある『WiFi』や『Ethernet』のサブメニューで設定をおこないます。

WiFi:

ZATO CONNECTをご自宅で、スタジオで、電話のホットスポットで、もしくはその他のWiFiアクセスポイントに接続するには、こちらのメニューの左側にありますWiFiスイッチを入れてください。



数秒でZATO CONNECTはエリア内でご利用可能なネットワークのリストを取得し、右側のフィールドに表示します。エリア内に多くのWi-Fiネットワークがある場合には、右側のスクロールバーを活用してリストを操作しお選びください。

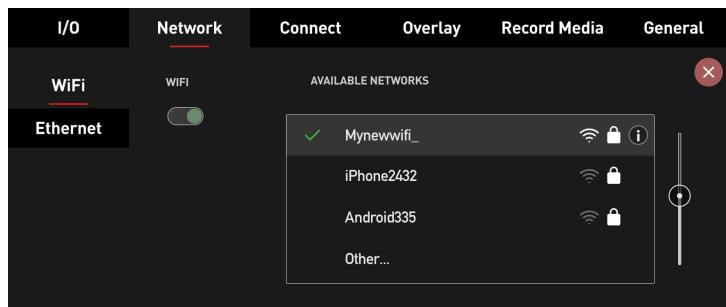


接続したいWi-Fiネットワークが見つかりましたら、Wi-Fi名をダブルタップしてネットワークの画面を開きます。PASSWORD（パスワード）フィールドをタップしますとキーボードが表示されますので、パスワードを入力してください。



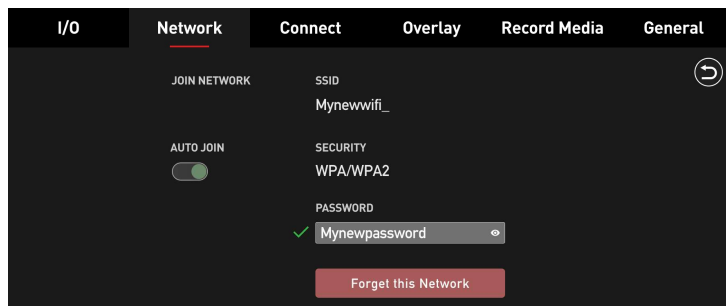
パスワードを入力して『OK』を押しますと、キーボードが閉じてWiFi サブメニューに戻ります。

ZATO CONNECTがWi-Fiネットワークに接続を試みていることを示す読み込みインジケータが表示されます。接続が成功しますと、緑のチェックマークがつきます。入力したパスワードが正しくない場合、もしくは接続ができなかったときにはメッセージ画面で再接続を促します。



現在接続中のWi-Fiネットワークをダブルタップしますと、未接続時には表示されていなかった新しい項目が表示されます。

左側には、『AUTO JOIN』スイッチがありWi-Fiネットワークのエリア内に入りますと自動的に接続することができます。右側にはZATO CONNECTのIPアドレスを表示するフィールドがあります。



一番下には、『Forget this Network』ボタンがあり、ボタンを押しますと、ネットワークとの接続が切り離されAUTO JOIN機能も解除されます。

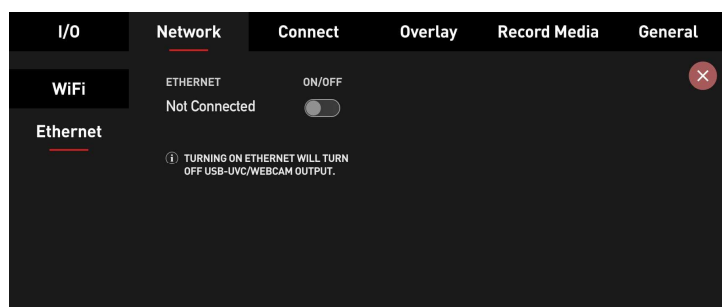
Wi-Fiを切るときには、左側のWIFIスイッチを押して接続を解除してください。

Ethernet:

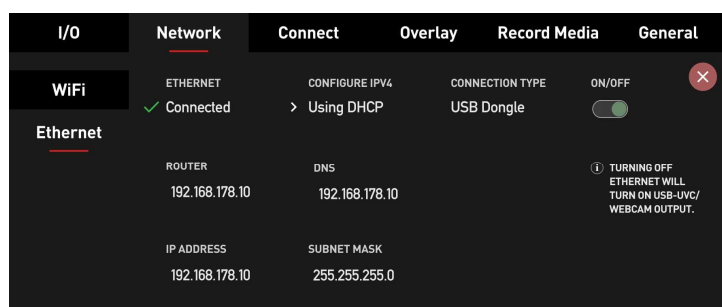
Ethernetでネットワーク接続を設定する前に、Wi-Fi接続が切れていることを確認してください。
次に付属のUSB-C to Ethernet dongleをZATO CONNECT背面のUSB2端子に装着します。



接続したら、『Network』メニュー内の『Ethernet』タブを選択し、ON/OFFスイッチを押してONの状態にします。

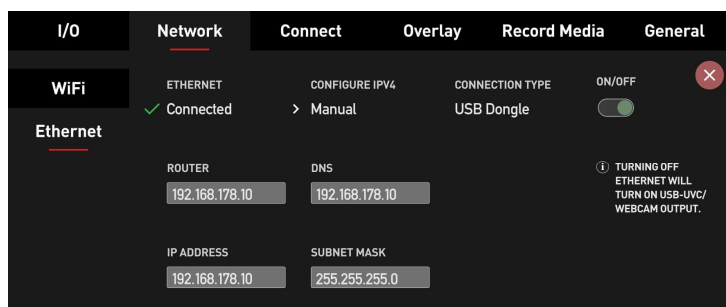


『CONFIGURE IPV4』では、初期設定の『Using DHCP』を使用するか、『Manual』モードに切り替えて手動でネットワーク設定を行うかを選択することができます。



次に、EthernetケーブルをUSB-C to Ethernetアダプターに接続します。

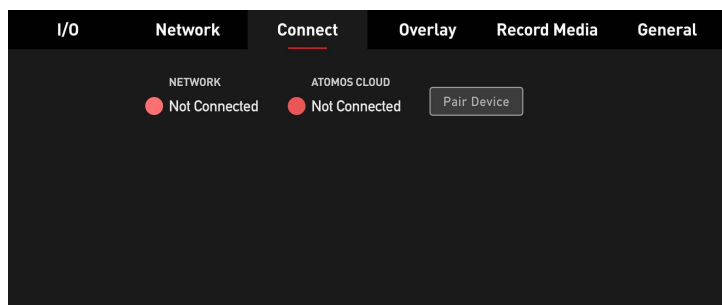
『Using DHCP』を選択している場合には、ZATO CONNECTは接続されているスイッチングハブ/ルーターからネットワーク設定のパラメーターを自動的に取得します。
『Manual』モードではネットワーク構成に応じて各パラメーターをすべて手動で入力する必要があります。



こちらのページのメニュー右側にあるON/OFFスイッチを使用してEthernet接続のON/OFFを切り換えることができます。

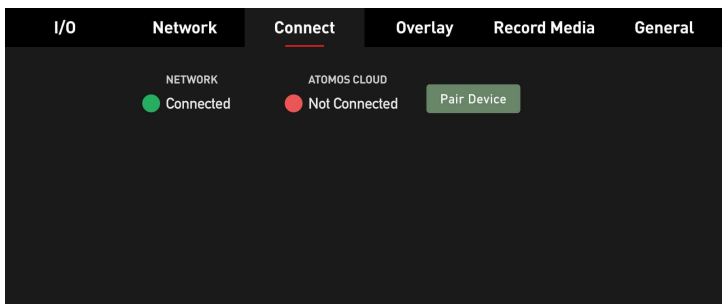
『CONNECT』タブ – ATOMOS Cloud STUDIOとの接続・ストリームの設定

『Connect』メニューでは、ZATO CONNECTとAtomos Cloud Studioをペアリングすることができます。また、ネットワークの接続状況、Atomos Cloudとの接続状況もご確認頂けます。

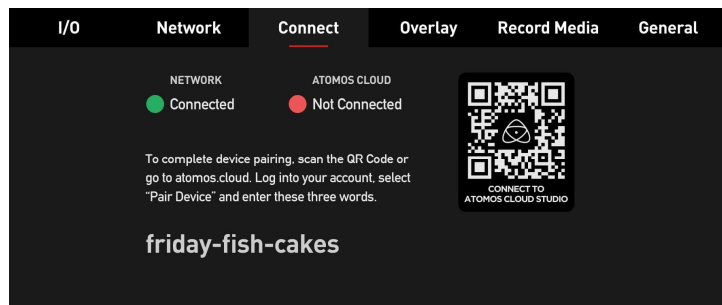


Atomos Cloudと接続する前に、機器をインターネットと接続してください。ZATO CONNECTは、Wi-Fiや付属のUSB-C・Ethernetアダプターを使用してインターネットと接続することができます。詳細は、『Networkタブ – WiFi & Ethernet』をご覧ください。

ZATO CONNECTがインターネットに接続されると、『Connect』メニューの状態が『Connected』に変わります。



『Pair Device』を押しますとZATO CONNECTはAtomos Cloud Studioと通信を行い、『Connect』メニューにQRコードと固有に割り当てられた3単語の組み合わせが表示されます。

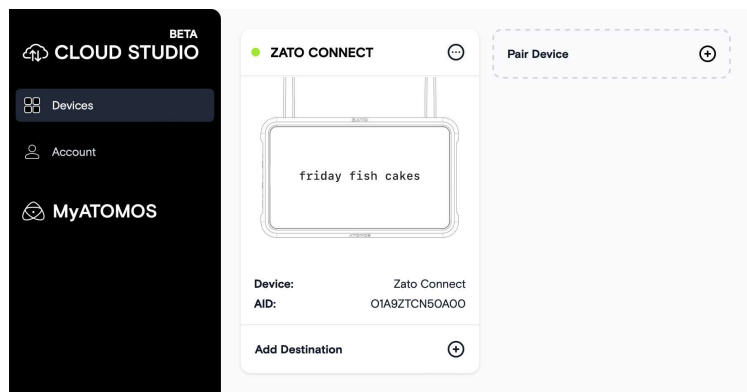


QRコードを読み込み、モバイル端末でAtomos Cloud Studioに接続、もしくはパソコンのウェブブラウザで、atomos.cloudに接続します。新しいアカウントを『sign up』で作成するか、既存のアカウントでログインします。ログインしたら『Pair Device』のボタンを押して、ZATO CONNECTの『Connect』メニューに表示された3つの単語を入力します。その後、機器にニックネームをつけてください。



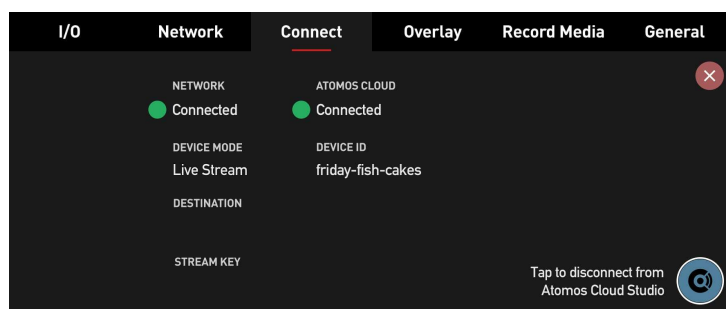
セットアップを終えますと、ZATO CONNECTはAtomos Cloudのアカウントとペアリングされます。

『Devices』タグが更新されて、ペアリングしている機器の画像と詳細情報が表示されます。機器の画像には3単語のコードが表示されており、すぐ下に機器の種類が記載されています。Atomos Cloudと接続されるとデバイス画面上側にある機器のニックネームの横に緑色の丸が表示されます。



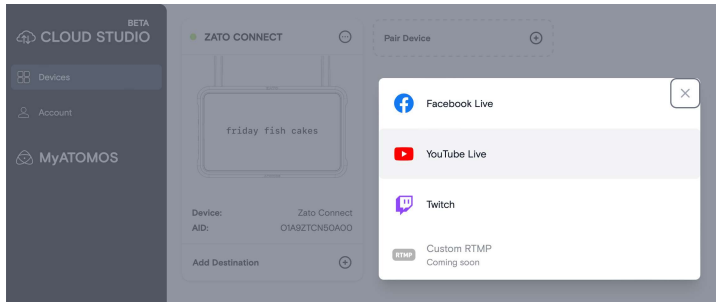
ZATO CONNECTの『Connect』メニューページも更新されてAtomos Cloudと接続されていることを示す緑色の丸が表示されます。現在のモードも『DEVICE MODE』の下に表示され、隣にはペアリングに使用されているDEVICE ID（デバイスID）が表示されます。

『DESTINATION（配信先）』と『STREAM KEY（ストリームキー）』はまだ未設定ですので、空欄のままです。

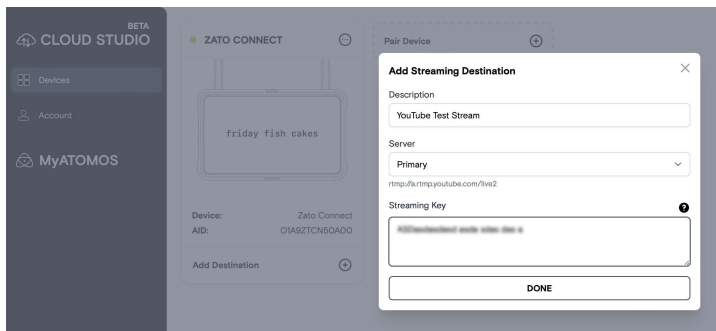


『CONNECT』タブ – ATOMOS Cloud STUDIOとの接続・ストリームの設定

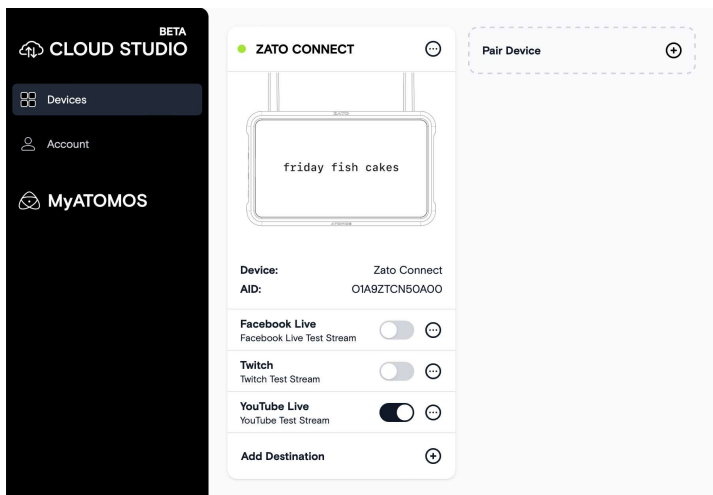
次に、atomos.cloudで機器のサービスを構成します。デバイスボックスの『Add Destination（配信先追加）』の横にある+をタップしますと、新しいウィンドウが開き、送信先オプションが表示されます。



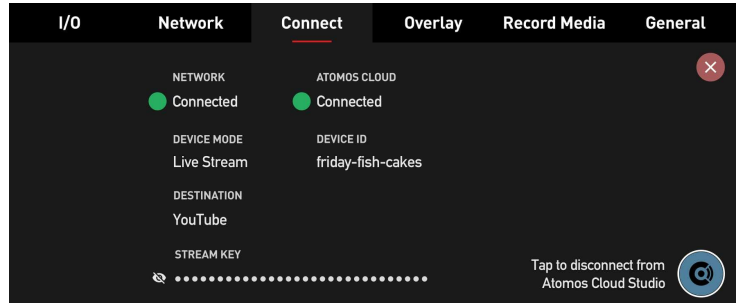
配信先を選択しますと、選択した配信先の資格情報とその他設定を入力するウィンドウが表示されます。



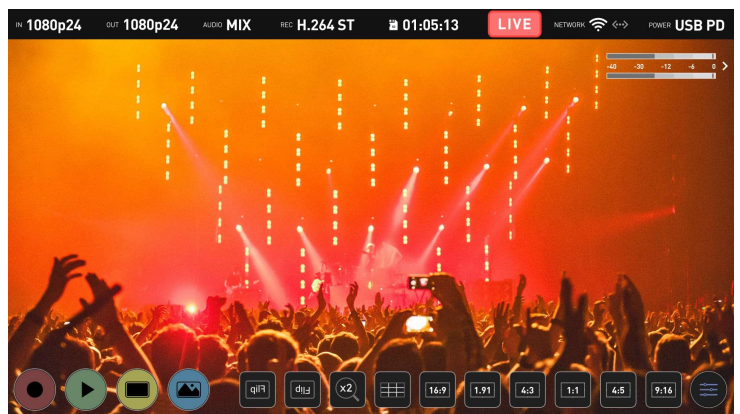
配信先の設定を終えましたら、ON/OFFスイッチを入れてストリームキーなどのストリーミング情報をZATO CONNECTに送信します。



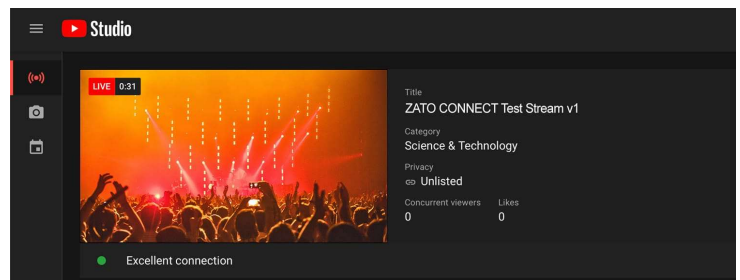
ZATO CONNECTは数秒で配信先情報を受信し、以前空白だった『DESTINATION（配信先）』と『STREAM KEY（ストリームキー）』に設定した情報が表示されます。プライバシー保護のため、ストリームキーは非表示になっていますが、左側の瞳アイコンをタップしますと表示に切り替えることができます。



すべての配信先情報の準備が整いましたら、トップメニューバーのLIVEボタンを押して、ストリーミング配信を開始/停止することができます。



配信先のプラットフォームがZATO CONNECTからRTMP/Sフィードを受信しますと、ライブストリームが開始されます。ライブストリームを終了するには、ZATO CONNECTのLIVEボタンをもう一度押してください。RTMP/Sの受信がとまると、ストリームは自動的に終了します。



OVERLAY（オーバーレイ）タブ - ADD MEDIA & LAYOUT

プログラム配信にオーバーレイグラフィックを追加したいときには、メインメニューの『Overlay（オーバーレイ）』タブで設定を行います。

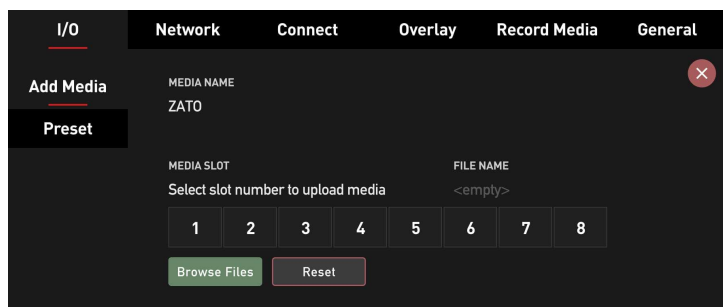
設定する前に、PNGグラフィックをSDカードにコピーしておきます。

ご注意: PNGファイルの最大解像度は1920×1080ピクセルです。アルファチャネルの透明度に完全対応しています。

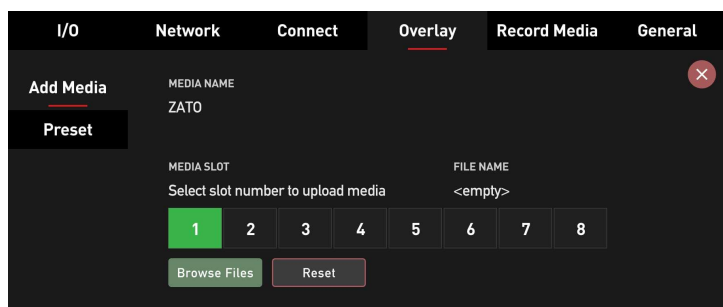
オーバーレイグラフィックを入れたSDカードをZATO CONNECT本体右側にあるSDカードスロットに差し込みます。

Add Media（メディアを追加）：

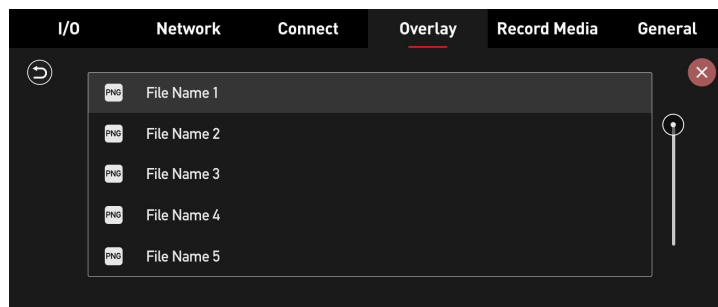
『Overlay』タブのサブメニュー『Add Media』で設定を行います。こちらでは最大8点のグラフィックをZATO CONNECTのメディアスロットにロードすることができます。



オーバーレイグラフィックをメディアスロットに追加する前に登録したいスロットを選択します。



スロットを選択後、『Browse Files（ファイルの参照）』を押します。ファイルブラウザが開き、SDカード内のフォルダを確認できます。読み込みたいPNGグラフィックが入っているフォルダを選択し、読み込みたいファイルをタップします。ポップアップウィンドウが開き、設定したスロットにアップロードしても良いかの確認が表示されます。『Proceed（続行）』を押しますと、アップロードが始まり、読み込みインジケータに進行状況が表示されます。アップロードが完了しましたら、『OK』ボタンを押して確認画面を閉じてください。

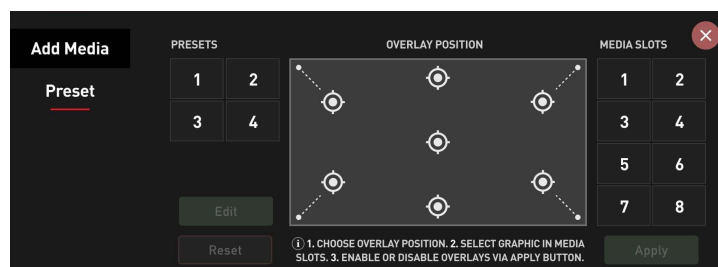


同様の手順で1~8の残りのスロットにPNGグラフィックを登録することができます。

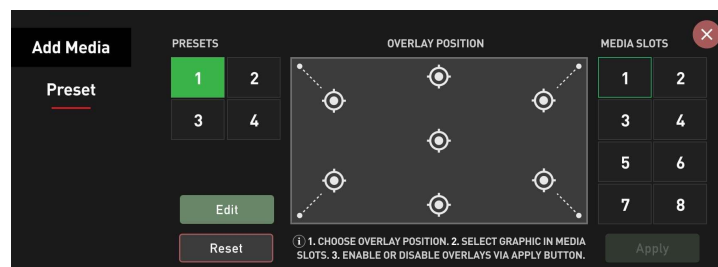
ZATO CONNECTの内部ストレージからすべてのオーバーレイグラフィックを削除したいときには、『Reset（リセット）』ボタンを押して画面に表示される手順に従ってください。

Layout（レイアウト）：

メディアスロットにグラフィックス登録し終わったら、左側のメニューで『Layout』タブを押してレイアウトを行います。レイアウトは左から右に向かって、『PRESETS』、『OVERLAY POSITION』、『MEDIA SLOTS』の3段階で設定を行います。

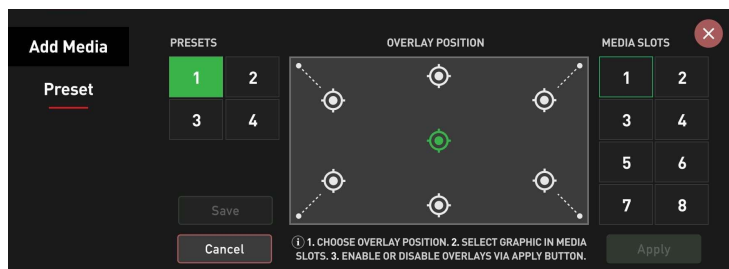


映像にオーバーレイグラフィックを追加する前に、プリセットを作成する必要があります。使用したいプリセットの番号を押してから『Edit』を押しますと、任意に組み合わせ設定を行うことができます。

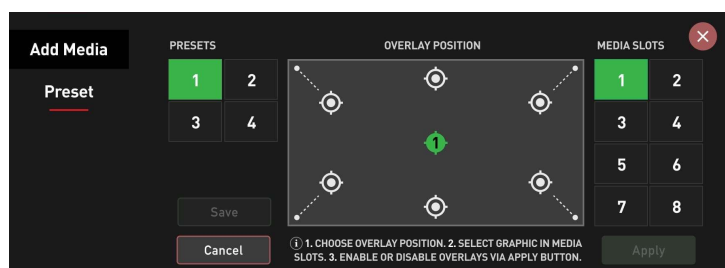


OVERLAY（オーバーレイ）タブ - ADD MEDIA & LAYOUT

次にPNGグラフィックを表示させたい位置を『OVERLAY POSITION』で選択します。

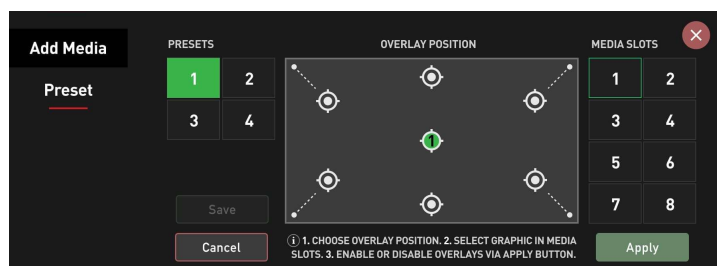


その後、右側の『MEDIA SLOTS』から使用するグラフィックを選択して『Save』を押します。



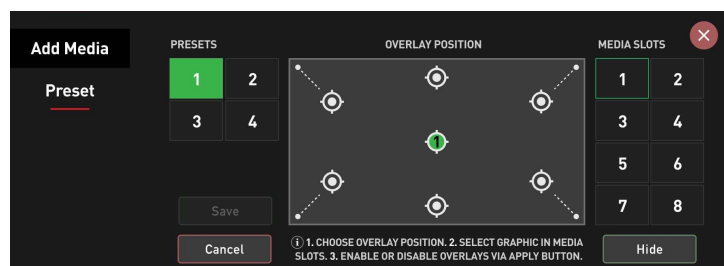
追加するすべてのオーバーレイグラフィックを同様の手順で登録します。

オーバーレイグラフィックの配置を終えて映像に適用したいときには、メニュー右下隅にある『Apply』ボタンを押します。



オーバーレイが適用時には『Apply』ボタンが『Hide（非表示）』に変わります。

映像に適用されているオーバーレイを外すときは、『Hide』ボタンを押してください。

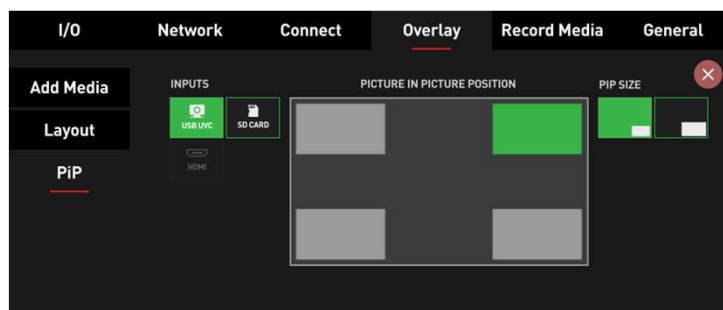


別のプリセットをつくるには、左側のPRESETSで番号を選択し、同様の手順をおこなってください。

設定したPRESETSを削除したいときには、削除したいPRESETS番号を選択してから、『Reset』ボタンを押してください。そのプリセット番号に設定されたすべてのグラフィックが削除され、はじめからやり直すことができます。

PiP（ピクチャーインピクチャー）

AtomOS Lite 10.03.01では、3種類のソースから1つを選択し、プログラムストリームにピクチャーインピクチャーを適用する機能が追加されました。設定を行う為に、『Overlay』タブに『PiP』メニューが追加されました。



ピクチャーインピクチャーは、USB UVCやHDMI入力の外、SDカード内の収録映像も選択することができます。

- SDカードからの再生映像に、PiPソースとして、USB入力もしくはHDMI入力を選択。
- USBからの映像ソースにPiPとしてSDカードの再生やHDMI入力を選択。
- HDMIからの映像ソースにPiPとしてSDカード再生やUSB入力を選択。


PiPソースは、4か所（左上、右上、左下、右下）のいずれか1か所に、2種類のサイズ（大、小）で設定することができます。

SDカード内の収録映像をメインフィールドやPiPソースとして再生する場合、ZATO CONNECTは、収録と再生を同時に行うことができないため、収録機能がご利用頂けません。ストリーミングはご利用頂けます。

PiPとオーバーレイのプリセットを併用してストリームの制作価値を高めることができます。


PIP – ベストプラクティスガイド

ZATO CONNECTでピクチャーインピクチャー機能を使用するには、ファームウェアバージョン10.03.01以降でご利用ください。

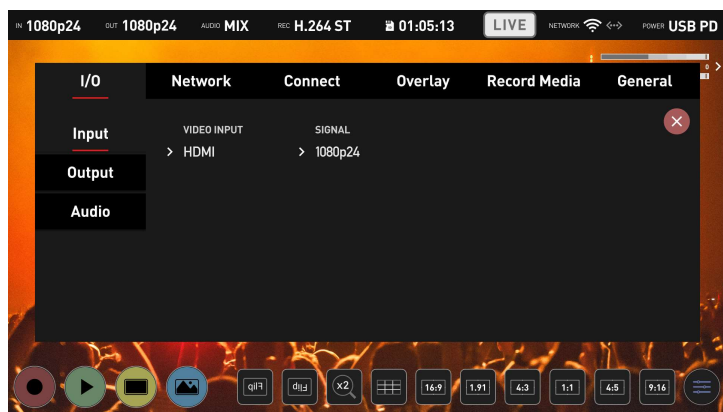
 PiP機能を使用するにはSDカードを装着する必要があります。

ZATO CONNECTでPiP設定をおこなうには、まず最初に、メインの入力ソースを選択します。HDMI入力端子にHDMI機器を、もしくは、USB1ポートにUSB UVC機器を接続します。

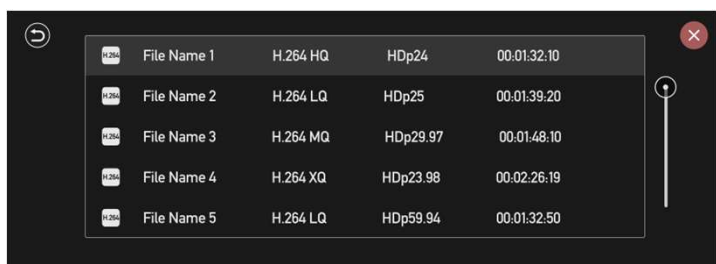


 USB2は付属のUSB-C～EthernetアダプターやUSB UVC出力でのみ使用する多目的ポートです。

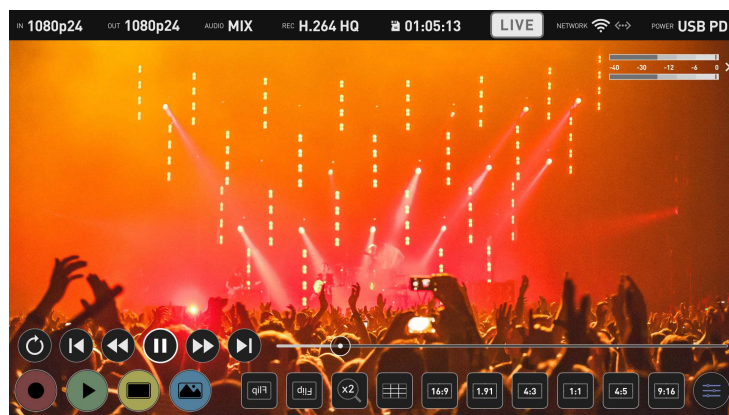
次に、Input（入力）メニューに入り、ZATO CONNECTに接続した機器に合わせてHDMIもしくはUSBを選択します。ソースを選びますとすぐに信号が切り替わり、背景の映像が表示されます。



メインフィールドにSDカードの映像を再生したい時には、『Input』メニューで『SD Card』を選択します。ファイルブラウザが現れますので再生したい動画を選択してください。



再生したい映像を選択しますと、全画面で表示され、下側に再生操作ボタンが表示されます。

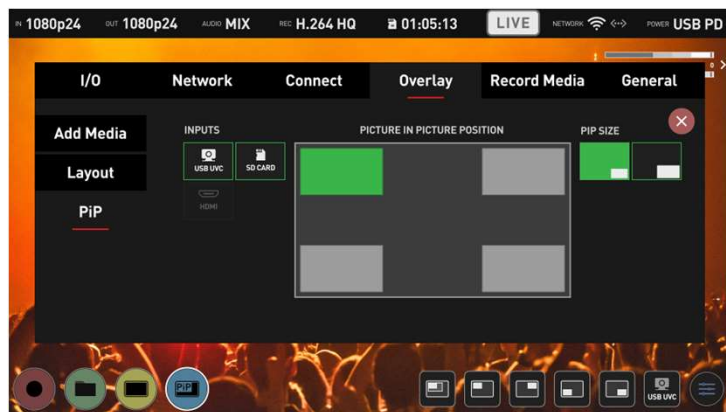


プログラムフィールドにPiPソースを追加

HDMI、USB、SDカードのいずれからメインフィールドを選択しますと、ピクチャーインピクチャーを追加することができますようになります。

設定するには、『Overlay（オーバーレイ）』タグから『PiP』メニューに入ります。ピクチャーインピクチャーで表示させたい映像を入力ソース（HDMIもしくはUSB UVC）をZATO CONNECTに接続、もしくは、再生動画を入れたい時にはSDカードを選択します。

メインの入力ソースの選択に応じて2つの入力ソースから選択することができます。



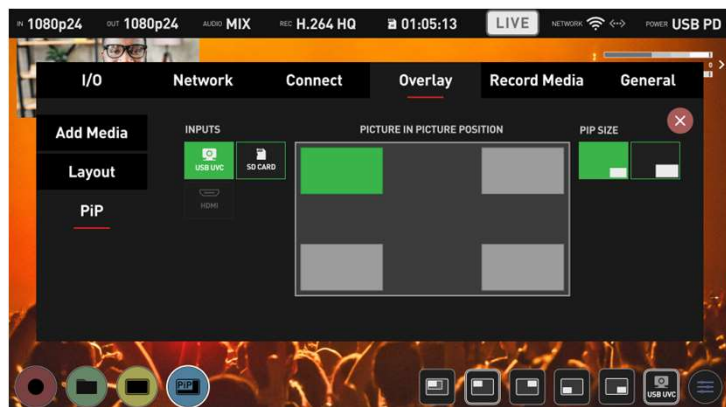
例1: メイン入力がHDMIのとき、USB、SDカードのいずれかをPiP入力ソースとして選択できます。

例2 メイン入力がSDカードのとき、HDMI、USBのいずれかをPiP入力ソースとして選択できます。

例3: メイン入力がUSBのとき、HDMI、SDカードのいずれかをPiP入力ソースとして選択できます。

 メインの入力ソースをPiP入力ソースとして選択することはできません。

PiP入力ソースを選びますと、初期設定位置の画面左下に表示されます。



PiP位置を変更するには、PiPの位置選択で4隅の中から希望の位置を選択してください。

PiPメニューの右側にある大小2種類のプリセットを使用して、PiPのサイズを変更することができます。


クイックアクセスバーでのピクチャーインピクチャー設定

新しいクイックアクセスバーのPiPセクションを使用して、メニューシステムに入ることなくPiP設定を行うことができます。

画面下側にあります、メニューバーの青いOverlay（オーバーレイ）ボタンを押すごとに、2種類のステータスが交互で切り替わります。

State 1は、オーバーレイのプリセットの表示・非表示を切り替えるときに使用します。State 2は、PiPのサイズ、位置、ソース選択など構成を設定するための操作アイコンが表示されます。



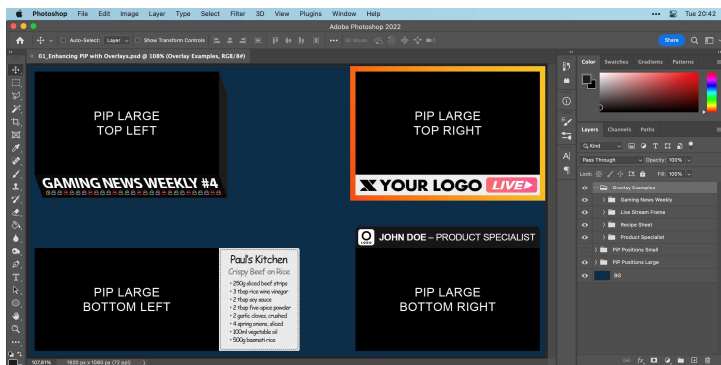
 こちらのボタンは、『Overlay』タブのPiPメニューで行った設定と連動しています。

オーバーレイで PiPの向上 – PSD テンプレート

ZATO CONNECTのPiP (ピクチャーインピクチャー)機能では、オーバーレイグラフィックを使用してPiP画像の下、上、隣に枠をつけたり、テキストを追加することができます。こちらの機能を使用することで、ストリーミングのブランディングや参加者の名前を追加し、視聴者に追加情報をご提供することができます。

カスタムオーバーレイグラフィックの作成工程を極力簡単にするために、Adobe PhotoshopのPSDテンプレートをご用意致しました。PSDテンプレートは[こちら](#)からダウンロードすることができます。

テンプレートは基本的なグラフィックと文字レイヤーが用意されており、ストリームに合わせて編集してお使い頂けます。



テキストを編集するには、レイヤースタックで、テキストレイヤーを選択肢、画像内のテキストをダブルクリックして選択後、新しく表示させたいテキストを入力します。ロゴを編集するには、Logo (ロゴ) フォルダをクリックし、画像の入ったロゴレイヤーを削除します。独自のロゴを追加できるようになりましたので、白い四角形に収まるように整えてください。

テンプレートには、『PiP Positions Small』と『PiP Positions Large』があり、ZATO CONNECTでPiP機能を使用するサイズと位置を設定します。

これらのレイヤーはPiPの横、上、下にカスタムグラフィックをデザインするときに有効にする必要があります。グラフィックをエクスポートする前に、これらのレイヤーを外していることをご確認ください。無効にしないと、グラフィックが付いたままになります。

また、メイン入力からの映像を表示する代わりに、PiPの背景に静止画を使用するための『BG』名称のついた青い背景レイヤーがあります。有効にしたり、画像に入れ替えることができます。

PiPでグラフィックを使用して他の入力映像を表示するときには『BG』レイヤーを無効にしてください。

デザインが完成しましたら、画像を1920×1080のPNGファイルでエクスポートし、透明度が適用されていることをご確認ください。

テンプレートレイヤーの中には、『Overlay Examples』フォルダ/グループがあり、その中に次のフォルダがあります。

- ・ 週刊ゲームニュース
- ・ ライブストリームフレーム
- ・ レシピシート
- ・ 製品スペシャリスト

グラフィックテンプレートを使用するには、他のレイヤーを無効にしてください。

次に、グループのサブフォルダを開き、レイヤーを編集します。

以下は、プロダクトスペシャリストのグラフィックスのみを表示した例です。

